

令和八年度 第一学期始業式 校長講話

皆さんあらためましておはようございます。四月一日付けで本校第 代校長として春日部工業高校から来ました齋藤です。よろしくお願ひします。先ほど着任式で今年度新しく本校に着任された 名の先生方を紹介させていただきました。市高歴でいえば、皆さんは先輩になるわけです。場所がわからない、何か困ったという先生方がいらっしゃったら、どうぞ声をかけてあげてください。周囲を見てこのような気働きができると「さすがは市高生だ」ということになると思います。よろしくお願ひします。

春は別れと出会いの季節です。昨年度までお世話になり、3月でご異動された先生方は4月24日の離任式でお会いできると思います。その日を楽しみにしていてください。

さて、先ほど春は別れと出会いの季節と申し上げましたが、もちろん春は始まりの季節でもあります。桜の花舞い散る本日、第1学期の始業式を迎え、令和8年度が本格的にスタートしました。この佳きスタートの日に私は皆さんに敢えて「失敗」をテーマにお話をしたいと思います。

その前に私自身の話になりますが、私は8年前に県の長期研修で某IT企業に1年間出向したことがあります。学校や県庁とは違う環境でいろいろ戸惑いもありましたが、刺激的で大変勉強になることがたくさんありました。1番心に残ったのは、勤務初日に「失敗を恐れなください」「恐れるのは挑戦をしないことです」「ノーリスク それ自体がリスクです」とはつきり言われたことです。利潤を追求する民間企業であるのに、失敗を恐れないとはどういうことか。もし挑戦をして失敗したらどうなるのか。そもそも自分はどれだけ挑戦しようとしたことがあったかと、頭の中がぐるぐると回ったことを覚えています。

そして1年間の勤務が終わりそうな頃に、上司であるマネージャーと失敗についての話をしたときに「挑戦することが成長でもある」ということばがありました。挑戦を続ける過程の中で、人間はあらゆることを想定し、結果としてそれが成長につながるということなんだと思います。加えて「流れが速く、正解の見えない、予想がしにくい現代だからこそ、失敗を恐れず一人ひとりの挑戦しようとする気持ちや工夫、アイデア、ひらめきといったものが実は地球規模で大きな意味をもってくる、大きく言えば未来を創るのではないか」というサジェスションももらい私も大いに納得したのです。

「できれば挑戦したいけど失敗するのは怖い」これが多くの人たちの偽りない感情でしょう。でも、ドラマの世界ではない限り、悲しいことに完全な人間はいないもので、普段の生活ではもちろんのこと、例えば人生における重要な場面や分岐点で、準備をしたり、勉強したり、研究したり、お金をかけたり、手伝ってもらったり・・・あらゆる手を尽くしたとしても失敗しないとは言い切れません。

やっぱり失敗するとへこみますよね。リカバリーに時間がかかることも確かです。私は神経質で臆病なところもあって、やっぱり失敗が怖いところがあります。加えてだんだん年をとってくると「またやってしまった（失敗してしまっただ）」と自分が嫌になることもあります。自己嫌悪に陥ったことも人生において何度もあります。

でも、これだけ失敗してくると少し視点を変えて、失敗することは避けたいけれど、実際失敗したときどうするか、どう考えたらよいか、どう受け入れるのか。こんな風に考えるようになりました。私は過度に落ち込まないことを第一に考えますが、大事なことはちょっと格好をつけて言えば、いわば「失敗の哲学」をもつということです。

あと2か月ほどで2026年サッカーワールドカップがアメリカ・カナダ・メキシコで開催されます。私も楽しみにしていますが、日本はホスト国を除いた中では、世界で一番早くワールドカップ出場を決めました。また、先日はイングランドにも初めて勝利しました。これは物凄いことです。確かに選手のレベルが以前より格段に上がっていることは間違いありませんが、日本代表の森保一監督の統率力、分析力、指導力も大きいと思っています。その森保監督が失敗についてこんなことを言っています。

「失敗は悔やむものではなくて、次に生かすもの。
失敗は悲しむものではなくて、成長のこやしにするもの。
失敗は嘆くものではなくて、次の飛躍への踏み台にするもの。
失敗するからよくなるものがある。
失敗しても失敗しても失敗しても何度でも立ち上がり、次のステージに飛躍しよう。」

失敗をしたとき、思い通りにならなかったとき、次にどうするか、自分自身の気持ちの持ちようが大事だと思います。要は失敗を悔やんだり悲しんだり嘆い

たり単なるマイナスととらえるのではなく、まずは自分事としてしっかり受け入れること。辛いけれど結果に向き合うことです。そこから次への糧とするマインドの強さ、ポジティブな思考が必要です。これが「失敗の哲学」なんだろうと思います。いかがでしょうか。生徒の皆さんには森保監督のこのことばをしっかりと胸に刻んでいただきたいと思います。

学期当初に当たり、皆さんには高校生活の残り1年、もしくは2年をどう過ごすのか、改めて自分の夢や将来像を心に描きながら志高く行動してもらいたいと強く願っています。

それでは、今年度も一日一日を大切にしていりある学校生活を送っていきましょう。我々全教職員で皆さん一人ひとりを丁寧にサポートしていきますのでどうか安心してください。共に頑張りましょう。話は以上です。終わります。

令和八年四月八日
さいたま市立浦和高等学校長
齋藤 潤